



ヘルンさんの443日ダイアリー
HEARN POSTINGS ON SOCIAL MEDIA
小泉八雲記念館 SNS で発信



#神々の国の首都443
#matsue443

最新情報はウェブサイト、SNSで
www.hearn-museum-matsue.jp



主催—小泉八雲記念館
共催—松江市、山陰中央新報社
協力—島根県立図書館、島根大学附属図書館、
松江市立中央図書館、松江歴史館
後援—八雲会、朝日新聞松江総局、共同通信社松江支局、
産経新聞社、時事通信社松江支局、
島根日日新聞社、中国新聞社、
日本経済新聞社松江支局、毎日新聞松江支局、
読売新聞松江支局、BSS 山陰放送、
NHK 松江放送局、TSK さんいん中央テレビ、
日本海テレビ、山陰ケーブルビジョン、
エフエムいずも、エフエム山陰



小泉八雲記念館

443 DAYS IN
THE CHIEF CITY
OF THE PROVINCE
OF THE GODS
27 JUNE, 2021
-12 JUNE, 2022
LAFCADIO HEARN
MEMORIAL MUSEUM

神々の国の首都に
住まふ443日

松江国際文化観光都市70年
神々の国の首都に
住まふ443日

やがて、日は沈みはじめ、
水と空とに驚くばかり美しい色の変化があらわれはしめらる。
紫色の夕靄がしだいに淡い朱と金になつて、
上の方へ煙のように色褪せていく。
ほのかに淡いそれらの色彩は、五分ごとに変化していく。
——ちやうど、美しい甲斐絹の色合いと陰翳に似た、
不思議な色の変化をかまねながら。
——小泉八雲「神々の国の首都」(平井呈「訳」『日本書紀』恒文社)

443 Days in the Chief City
of the Province of the Gods



Lafcadio Hearn
Memorial Museum

〒690-0872 島根県松江市奥谷町322

[電話] 0852-21-2147 [ファックス] 0852-21-2156

開館時間——[4-9月] 8:30-18:30(受付終了18:10)

[10-3月] 8:30-17:00(受付終了16:40) 年中無休

入館料——[大人] 410円(団体320円/記念館・旧居2館共通券560円)

[小・中学生] 200円(団体160円/記念館・旧居2館共通券280円)

小泉八雲の誕生日

2021, 2022,
6.27 sun — 6.12 sun

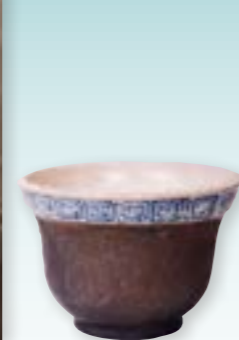
題字—七瀬英波



『富田旅館ニ於ケル小泉八雲先生』^[1] (1936年)
富田太平・ツネによる口述筆記



富田ツネ^[2]
富田旅館女将



ハーンが富田旅館で使った
手水鉢^[1]



西田千太郎日記^[3] No.5
西田日記にはハーンとの
交友が細かく綴られている



西田千太郎^[1] (1862-1897)
島根県尋常中学校教頭で、
ハーンが心から信頼した友人



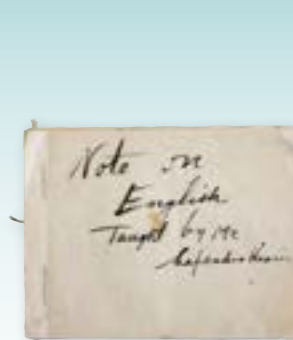
桑原羊次郎編『松江に於ける八雲の私生活』校正原稿^[2]
桑原は、ハーンの近くで世話をした女性2人へのインタビューをまとめて出版した



籠手田よし子^[1]
籠手田県知事令嬢



病氣見舞いにハーンに贈った鳥かご^[1]
よし子は病気のハーンに見舞い状と鴛を届けた



横木富三郎の英語ノート^[1]
横木は尋常中学校のハーンの教え子

Chapter 1 神々の国の首都に住まう443日
443 DAYS IN THE CHIEF CITY OF THE PROVINCE OF THE GODS

Chapter 2 ルポルタージュとトラベログ
REPORTAGE AND TRAVELOGUE

Chapter 3 言葉の画家が描く風景
SCENERY DRAWN BY A WORD PAINTER

Chapter 4 サウンドスケープという概念
CONCEPT OF A SOUNDSCAPE

Chapter 5 フォークロリストの眼と心
THE EYES AND HEART OF A FOLKLORIST

Chapter 6 ヘルン先生の暮らし
教師・結婚・趣味・散歩
HEARN'S LIFE TEACHING, MARRIAGE, INTERESTS, WALKING



ヘルンさんの443日ダイアリー
HEARN POSTINGS ON SOCIAL MEDIA
#神々の国の首都443
#matsue443

Classic

Modernism



『知られぬ日本の面影』
Glimpses of Unfamiliar Japan.
Houghton, Mifflin & Co., 1894
ハーン来日後初の著作。1890年8月、「神々の国の首都」松江にやって来たハーンは、そこで見聞した民衆の暮らしや風物をみずみずしい文体で描出している。



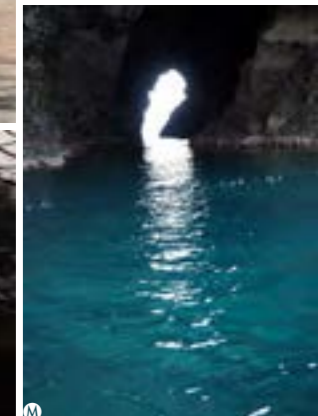
松江時代の八雲^[5]

Remaining Glimpses of Old Japan 今も残る日本の面影

●小泉八雲は、1890年8月30日から翌年11月15日までのわずか443日間を松江で暮らしています。運命に導かれるように松江にやって来た八雲は、この町を「神々の国の首都」と呼んで愛しました。来日後初の著作『知られぬ日本の面影』(1894年)は、日本人の心や伝承をフォークロリスティックなまなざしで捉えた優れた紀行文で、明治日本の一地方都市を感動に満

ちた魅力あふれる文体で、鮮やかに描出しています。

●松江市が「ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の文章を通して世界的に著名である」という理由から、国際文化観光都市になって70年。ハーンの五感力とオープン・マインドを意識して現代の「神々の国の首都」を歩けば、持続可能な社会を作るためのヒントが見つかるかもしれません。



オープニング
2021.6.27^[4] 小泉八雲の誕生日
●6.27が誕生日の方にプレゼント
●来館者全員に記念品
●ギャラリートーク 3回
詳細はウェブサイト

小泉凡館長のレクチャーシリーズ
探求!『知られぬ日本の面影』
14:00-15:00 | 会場—2階 多目的スペース | 各回ともオンラインで配信
定員—[会場]18名 [オンライン]100名 | 参加無料・要申込
申込受付開始日—各回の開講日1か月前の9:30(定員になり次第締切)
申込方法—[会場]電話、電子メールで [オンライン]ウェブサイトの専用フォームで

- ①「神々の国の首都」のサウンドスケープ—2021.7.17^[4]
 - ②宍道湖に見た陰と移ろい—9.4^[4]
 - ③ヘルンさんの松江の暮らし—11.6^[4]
 - ④山陰の伝承怪談と代表作『Kwaidan』—2022.1.22^[4]
 - ⑤神道との出会いと戦後日本への影響—4.16^[4]
- ほかにイベントを予定 詳細はウェブサイト

ご来館にあたってのお願い 小泉八雲記念館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下のことに気をつけております。●入館時に、マスクの着用、検温、消毒、連絡先のご記入をお願いしております。●37.5℃以上の発熱がある方は入館をご遠慮いただきます。●混雑時は、入場制限を行っております。●必要に応じて施設の換気、消毒を行い、スタッフはマスクに加え、フェイスシールド、手袋等の着用をすることがあります。●その他、注意事項の追加や更新がありますので、ウェブサイトをご確認ください。



●A 富田旅館(右端)^[4] ●B 島根県尋常中学校^[1] ●C 宍道湖と嫁ヶ島^[4] ●D 美保関^[7] ●E 小泉八雲旧居^[6] ●F 須術都久神社^[4] ●G 熊野大社 ●H 花見湯墓地 ●I 大橋川 ●J 堀川 ●K 清水寺(清水稲荷社) ●L 美保関の青石畳通り ●M 加賀の瀬戸(新瀬戸) ●表紙 宍道湖の夕景所蔵・出典— [1]小泉八雲記念館 [2]島根大学附属図書館 [3]島根県立図書館 [4]松江歴史館 [5]小泉家 [6]『小泉八雲作品集』(恒文社、1964)より転載 [7]パトーン・ホームズ撮影。The Writings of Lafcadio Hearn, Houghton, Mifflin & Co., 1922より転載